

令和4年度地域ケア会議及び在宅療養連携 第1回全体会議 会議録

- 1 開催日時 令和5年（2023年）3月13日（月）19時00分～20時00分
- 2 開催場所 Z o o m開催
- 3 出席者 【構 成 員】佐藤 眞紀子、秋澤 暢達、黒木 輝樹、西山 和彦、鈴木 康生
三浦 健太、塚本 久美、前園 真毅、武藤 正樹、沢井 奈穂美
大澤 愛子、藤倉 ゆみ子、小林 二三代、本田 順一、鈴木 富子
玉井 秀直、石川 智子、樋口 範子、田島 利子、名古 亜貴子
樋口 良子、野間 友紀、高橋 伸宏、井上 信子、竹山 淳子
神崎 由美子、橋本 健司（敬称略、名簿順）
【オブザーバー】横須賀市歯科医師会 薮下 菜穂子（敬称略）
【事務局】福祉こども部地域福祉課 藤崎 啓造、竹内 宏、白石 貴宏
【傍 聴 者】なし
- 4 開 会
- 5 オブザーバーの紹介、傍聴者・配布資料の確認
事務局から、欠席者の報告、オブザーバーの紹介、傍聴人数の報告、および配布資料の確認を行った。
- 6 議 題
 - （1）令和4年度在宅医療・介護連携推進事業の実施状況報告（資料2）
事務局より、資料2に沿って説明した。
 - （2）各専門部会からの報告
 - ① 複合的な課題（困難事例）検討専門部会
秋澤部会長から、資料3に基づいて報告された。
 - ② 食・口腔ケア専門部会
黒木部会長から、資料4に基づいて報告された。
 - ③ コロナフレイル対策専門部会
佐藤部会長から、資料5に基づいて報告された。
 - ④ 入退院・在宅療養連携専門部会
武藤部会長から、資料6－1、資料6－2に基づいて報告された。

〔質問、意見等〕

秋澤：④入退院・在宅療養連携専門部会の報告について。

アンケート結果は、入所施設・通所施設の回答は分けて集計したのか。

武藤：入所施設・通所施設の回答は分けていない。

秋澤：通所系の看取りには往診医のハンドリングが必要なこと、施設系の看取りには 24 時間体制で対応できるかが問題になること、グループホームなどは入所できる人数に限りがあることなど、それぞれ課題と感じた。

（３）令和５年度の専門部会の進め方について（意見交換）

令和５年度の各専門部会の進め方や、この２年間の活動を振り返り意見交換を行った。

〔意見等〕

樋口（範）：少人数で実施することは良いと感じた。多職種のことをより知ることができた。

ヘルパーは訪問時間が限られているため、口腔ケアの大切さをケアマネジャー、家族に伝えきれていないことがある。今後はしっかり伝えられるようにしていきたい。

黒木：口腔ケアの大切さを伝えることについて、歯科医師としても不十分な部分があると思っている。歯科職種だけでなく、多職種全体へ口腔ケアの大切さを伝え、ケアプランに落とし込めるようにしたい。

佐藤：コロナフレイル対策専門部会は、１回しか開催できなかったが、コロナフレイルは今後大きな問題になると考えているため、活発に活動していきたい。

コロナフレイルに関して。在宅の患者は、関わっている多職種のおかげで状態を維持している人が多い。一方で、通院で受診されている患者は、家にこもってしまった結果、状態が悪化しているケースがある。

私自身は、地域包括支援センターとの連携が不足していたと反省しており、専門部会の中で、地域包括支援センターをぜひ利用してくださいとお願いした。この会議を通して、多職種が地域包括支援センターとより一層協力できるような体制を作り、市内の多職種全体に広げていくことが大切ではないかと考えている。そのためにも、この会議で実際に顔を合わせて話し合うということが重要と感じた。

フレイルの方の免許返納について。フレイル状態であっても、買い物に必要なため免許を返納しない（できない）人がいる。本人及び周囲の人の安全のためにも、免許を返納しても移動することができる仕組みを発信していくことが、今後ますます必要になっていくと考えている。

塚本：コロナで状況が大きく変わった中でも、有意義な会議が実施できたと思う。一方で、４つの専門部会はそれぞれが単発の研修会、グループディスカッションのような印象になっているので、各構成員は、会議を通して得たものを各団体に持ち帰り、多職種全体に広げていくことが必要だと感じている。

前園：入退院・在宅療養連携専門部会のアンケート結果について、勉強になった。

ソーシャルワーカー協議会は現在 200 名弱の会員が在籍しているが、次の総会の事業報告にて、地域ケア会議及び在宅療養連携会議で得たことを報告し共有させていただきたい。

（次ページへ続く）

小林：塚本氏と同じく、皆で話し合うことが大切だと感じている。話し合いの中で、例えば口腔ケアの時間がとれないことが課題として挙げた場合、どのようにすれば改善できるかを皆で考え、形にしていく部会でありたいと考えている。今後も、困難な事例であっても、皆で話し合い、良い方向に進められるような会議にできると良い。

秋澤：ほっとかんについて。医療・介護職において、ほっとかんの認知度がどの程度か気になっている。ほっとかんに情報を集約し、整理して皆で共有できるようにすることが大切だと考えているので、ほっとかんの周知をより一層進めることが必要だと思う。

今後の地域ケア会議及び在宅療養連携会議について。専門部会だけでなく、全体会議で話し合う機会を増やしたいと考えている。専門部会も、対面で会って、活動していければと考えている。会議の方針等について、皆様からもぜひご意見を賜りたい。

6 そ の 他

(1) 事務局からの報告

- ・構成員の任期満了に伴う改選について
- ・令和5年度の全体会議について

令和5年5月から新構成員の任期が始まる。6月から7月頃に第1回全体会議を実施する予定である。

(2) その他

各団体から、特に周知事項はなかった。

7 閉 会

以上